

【特集】

平泉の可農性を探る

グリーン・ツーリズム農業体験

ふるさと「平泉」の魅力に気付いていますか。
地域に根付く「農業」の魅力を知っていますか。



古い民家、見慣れた田園風景、地元で収穫した野菜を使った昔ながらの料理、夜中に響くカエルの大合唱、夜空に輝く星々…。
当たり前のように暮らしている私たちの環境は、都会の子どもたちの目にはどう映るのでしょうか。
今回は、本年度18回目を迎える神奈川県相模原市立緑が丘中学校の農業体験学習の受け入れの様子を通して、ふるさとの良さを探ります。
私たちの気付かなかった平泉の魅力、農業の新たな可能性が見えてくるかもしれません。

グリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズムは長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパ諸国で普及した旅の形です。都市部の人が、大規模開発型のリゾートではなく、農山漁村地域の民家に宿泊し、農山漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動として関心を集めています。農山漁村地域は、生活の場であると同時に、訪れる者にとっては楽しい余暇空間ともなりえます。す。ひとつの場所に長く滞在し、さまざまな田舎暮らし体験をすることは、単なる観光旅行とは異なり、手に入れる感動もより深く、大きなものになるのが最大の魅力です。

都市部の人にとっては都会の喧騒を忘れ、ゆったりとした自然に身を置くことで、心にゆとりを持てるようになる旅であり、農山漁村の人にとっては都市部との交流により地域の活性化につながる旅。それがグリーン・ツーリズムなのです。

これまでの歴史

昭和62年6月に平泉の特性を生かした農業振興を図ることを目的に「ひらいらずみ型農業実践協議会」が設立され、その中で推進事業の一つとしてグリーン・ツーリズム部門が設けられました。そして平成元年より体験型一般旅行と教育旅行の受け入れが始まり、平成7年には民泊を伴う体験型教育旅行として神奈川県相模原市立緑が丘中学校などの教育旅行生の受け入れを行い、都市と農村との交流を続けてきました。

その後平成20年9月に「ひらいらずみ型農業実践協議会」は解散となりますが、同年10月には協議会の推進事業のうちグリーン・ツーリズム部門を引き継ぐ組織として「平泉町グリーン・ツーリズム推進協議会」が設立されました。

平泉らしさを生かした体験メニューや、人と人とのふれあいを核とした民泊など、いずれも地域の特色を生かした農村体験を提供しています。